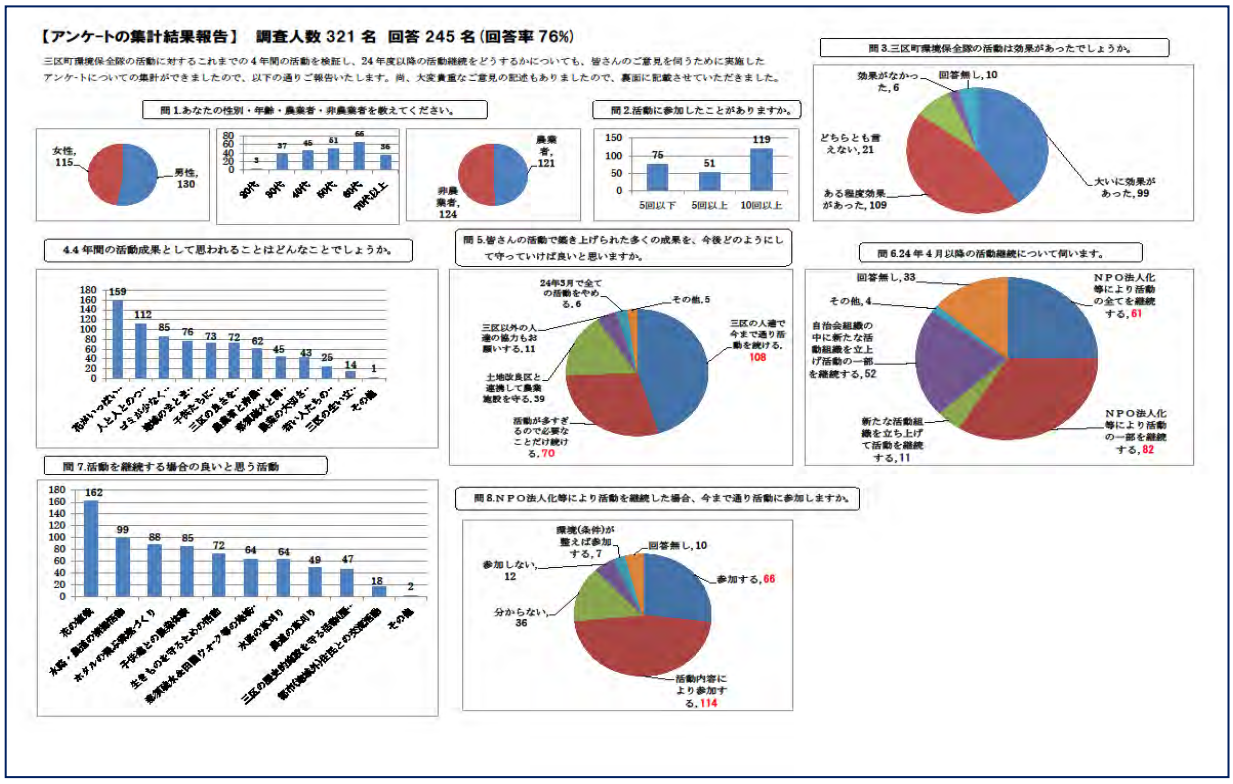
活動情報			
取組項目	地域住民を対象にしたアンケートを実施		
組織名	三区町環境保全隊	那須　管内	那須塩原　市

活動目的：農地・水・環境保全向上対策の効果や三区町環境保全隊の取組みの評価を確認し、今後の活動継続に向けた協議に活用する。

活動内容：平成 19 年度～22 年度までの４年間の活動実績を検証するため、地域住民 321 名を対象にアンケートを実施した。また、過去４年間の農業者・非農業者・子供の延参加人数を分析した。



【自由意見】22 件のご意見がありました。

・日当がなくなると参加者が減少することが考えられます。活動を継続するためにはどうしたらよいか。難しいです。
・自分には持病があり、参加したい気持ちはあるのですが、思うように参加できず複雑な気持ちです。
・名誉ある沢山の賞をいただいたことは素晴らしいことですね。
・沢山の賞をいただきおめでとうございます。支援交付金がないからといって活動をやめるわけにはいかないでしょう。名誉ある賞をいただいたので頑張りましょう。
・ＮＰＯにこだわることはないと思う。法人として認定されると法人税等、必要な経費がかかります。ちゃんと総会や役員がきちんとすれば人格のない社団でもいいと思います。
・役員の方以外で、旧住民の参加が少ない。新しい土地で同世代の方々とも交わりを持ちたいが、若い世代の地元の人の参加が少ないと思う。
・法人化する意味、必要性がよくわかりません。
・交付金がなくなると参加者がすくなくなると思います。
・回数等もかなり多いので効率を考える必要もあるかと思う。
・自分たちの住む環境を良くするためにできることは協力したい。
・限られたものにしか参加していないので、全ての活動内容を詳しく把握していないので活動の継続等判断しかねます。
・活動量が多すぎるのであれば人数に応じて活動を決め、人数が多くなってくれば色々なことができるのではないでしょうか。
・他の用事にぶつからなければ活動に参加したい。
・組織活動の難しさを実感しました。と言うのも、私たちはひな形が出来上がった状態の所に参加してきたので、比較的楽な立場でした。今までの名誉ある功績はやはり上に立つ方々の並々ならぬ努力が認められたことです。まだ４年間ですが本当にご苦労様です。
・活動には効果があるが、各種行事が多くてなかなか参加できない。
・今回の活動の中で、ゴミ、環境づくりに少し意識が変化したのではないか。そのことが根本的に大切なんだということを知ってもらいたのではないかと感じています。本当の活動はこれからだと思います。
・地域の活動にはもっと近隣の人達に参加してもらうことも大切。
・活動を通じてみんなと会うのが楽しみです。
・日当がなくなるので良かった。これからが本当の活動だ。
・環境保全の意識が芽生えた。
・地域民の協力で広がった地域活動の力が認められたのだから、より大きな輪として未来に発展させていくことが有意義だと思います。

【アンケートの結果から推定できる分析内容】

問 1．あなたの性別・年齢・農業者・非農業者を教えてください。
・性別ではほぼ同数　・年代別では 60 代が 27%と一番多く、次に 50 代が 20%であるが、30 代～50 代が 54%であり、10 年後の活動にも大いに期待できるものと思われる。

問 2．活動に参加したことがありますか。
・活動回数については 21 年度～22 年度の二年間についての参加回数を確認したものであるが、10 回以上が 49%、5 回以上を加えると 69%であり、参加意識の高さが見られる。

問 3．三区町環境保全隊の活動は効果があったでしょうか。
・大いに効果があったが 40%と高く、さらにある程度効果があったを加えると 85%であり、地域活動に対する関心の高さと地域の変化を強く感じているように思われる。

問 4．4 年間の活動の成果として思われることはどんなことでしょうか。（複数回答）
・花がいっぱいできレイになったが 159 件と一番多く、人と人とのつながりができた 112 件、ゴミが少なくなった 85 件、地域のまとまりが良くなった 76 件、子供達に色々な体験をさせることができた 73 件、三区の良さを地域内外にアピールできたが 72 件で 70 件を超え、その他にも農業者と非農業者のつながりができた等、子供から大人まで一緒になって活動している景観形成活動、農業者と非農業者が合同で行う水路の草刈り、子供会育成会との連携で行う生きもの調査や那須疏水に係る活動等が高く評価されたものと考えられる。

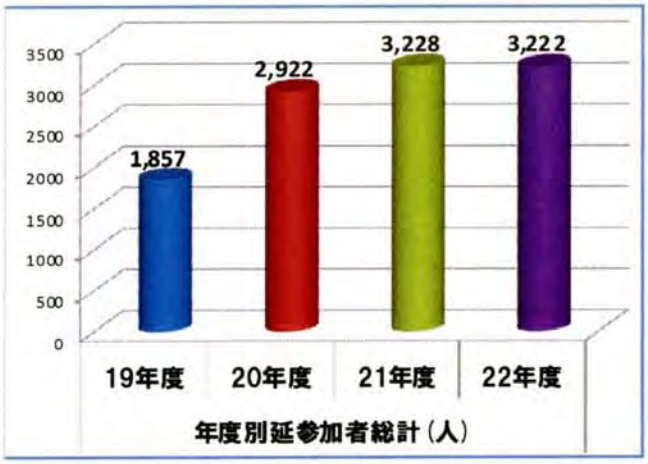
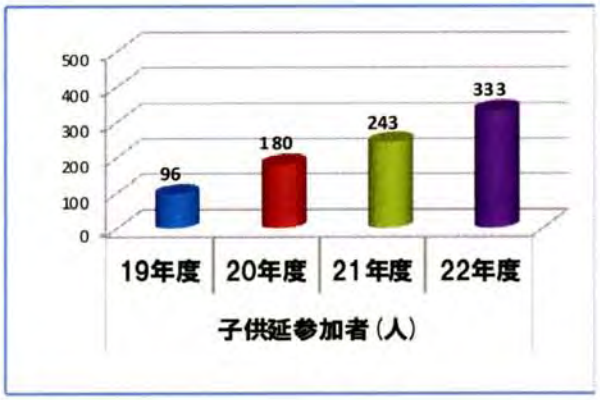
問 5．皆さんの活動で築き上げられた多くの成果を、今後どのようにして守っていけば良いと思いますか。
・三区の人達で今まで通りの活動を続けるが 108 件と多く、活動が多すぎるので必要なことだけ続ける 70 件、土地改良区等と連携して農業施設(百堰・蛭堰・加治屋堰用水路等)を守る 39 件となっている。三区の人達で今まで通り活動をつづけると活動が多すぎるので必要なことだけ続けるを合わせると 178 件になり、72%が地域内だけでの活動に期待しているように思われる。今後地域内外との連携を図る取組みを推進することも必要と考える。

問 6．24 年度 4 月以降の活動継続について伺います。
・ＮＰＯ法人化等により活動の全て 61 件と一部を継続 82 件を合わせると 143 件で全体の 58%であり、ＮＰＯ法人化に対して期待していることも考えられる。自治会組織の中に新たに活動組織を立ち上げるも 52 件あるが、52 件の約 70%は植栽や清掃活動に限定されてることから、現状の活動の継続を考えているものと思われる。

問 7．活動を継続する場合の良いと思う活動(複数回答)
・花の植栽(162 件)、水路・農道の清掃活動(99 件)であるが、ホタルの飛ぶ環境づくり(88 件)と生きものを守るための活動(72 件)も多く、生きもの調査や田園ウォーク等の活動を通して実施した農業と生きものの関係に対する理解が深まり、生態系保全意識が高まったものと思われる。

問 8．ＮＰＯ法人化等により活動を継続した場合、今まで通り活動に参加しますか。
・参加する 66 件、活動内容により参加する 114 件、合わせると 73%が参加するとの意思表示であり、これまでの着実な活動に対する評価と今後の活動に期待しているものと考えられる。

22年度までの数値的実績



農業者、非農業者、老若男女、子供達、できるだけ多くの地域住民の参画と参加を考えた、広報・啓発・バランスの取れた実践活動等、地道な活動が実を結び、"環境保全活動"に対する関心の高まりとして、参加者の増加につながったものと思われる。